

## 第 86 話〈鉱業王国〉の要約と参考資料

### 第 86 話〈鉱業王国〉の要約

軍需産業中島飛行機系列の中島商事が、宮崎県北部にスズの生産拠点づくりに着手し、土呂久鉱山はその一翼をになうことになりました。中島商事が計画した鉱山、選鉱場、精錬所、積出港建設の動きを、延岡市立図書館に保存されている延岡新聞で追ってみました。

### 第 86 話〈鉱業王国〉の参考資料

#### 86-1 延岡新聞の独立

##### 独立の御挨拶（1929年8月1日延岡新聞）

地方新聞の併合、或は適者生存が事實は、我が新聞界に於ける見通がし得ない趨勢であります、経済界の不振といふことと新聞の資本主義化といふことが、無論、その原因であります。

資本の貧弱なるものが、漸次にその影を潜めて、強大なるものが、信用を博して隆昌に向ふのは、自然の轍で、如何ともすることが出来ませぬ、我れ等は、中央新聞として大朝、大毎の如き、世界的大新聞を有して居ります、地方新聞を作る我れ等は、この大新聞に対抗したる新聞を作らんとするのが実に無謀の極であると信じます。

「中央の報道は、中央の大新聞に委せ、中央の大新聞が、手の届かない地方的の新聞を作つて、ニュース即ちライフである目的を達する日を得たい」これが、我々の宿題となつて、久しく解決されなかつた問題でした。

大分新聞が、本県文化につくすがために、刷替版として、延岡新聞を発行したのは、7年以前の大正11年でした、爾来、改善に改善を加へて、多大の努力を払い、よく尽くして呉れました、その過去に対しては、感謝の念を禁じ得ませぬ。

日豊線に、夜行列車運転の内定を見た時に、一大革正を要するとを大分紙が認め、紙面を12頁に拡張し、編輯締め切りを午前零時まで延長し、清新なるニュースを載せて、大朝、大毎、福日その他の大紙に対抗せねばならぬことになり、直ちにその実現に向つて進んだのでした。母紙の拡張は、遂に本県に存在する三姉妹紙を母紙に合併して、大分新聞として県下に進出することになりました。

延岡は県北の首都である、それを代表する新聞を失ふことは、県北の恥辱であると信じ一死以てこれが完成に進む方針を樹て地方自立の基礎に立つた地方新聞としての延岡新聞を更生せしむるに心胆を砕き、目出度く、本日その初刷りを発行し、将来の永遠に向つて一步を踏み出した。

（以下略）

## 独立の経過（1929年8月1日延岡新聞）

- 6月17日 大分新聞社長の招電により佐藤記者は出張会見し諸事情を率直に述べ、意見の交換を遂げ、ひたすら宮崎三姉妹紙の存続を懇望したるまま協議を翌日に持ち越す。
- 6月18日 前日に続いて協議を続行せしも、夜行列車問題と、大分紙40周年記念事業として12頁拡張断行、編集締切時間を延長して、夜12時とするために刷替版不可能の事情などより、已むなく最後の決心である「独立」に到着、それ以来、苦慮と研究とが、重なって襲来。
- 6月25日 漸く成案を得て、始めて再生の希望に満つることを得て大分に出張、活字20余万本の鑄造契約成立
- 6月28日 笠原鷲太郎翁の義気により印刷機械購入費用の融通について口約あり、直ちに大阪椎木鉄工所に注文
- 6月29日 工場用諸器具類を注文、また編輯上の各種必要品原稿などを注文
- 7月10日 逓信局長に、発行人その他の変更認可申請書を提出
- 7月17日 内務大臣に、発行所その他の変更届を提出し、新聞紙法による全般の手続を終る
- 7月18日 関係者に、独立の已むなき事情と、これに対する準備の完成せるを告ぐ
- 7月21日 延岡、富高の全読者に独立を発表。注文せし新活字約20万本到着、更に3万本の注文をなす。当日までに印刷所の拡張工事全く完成
- 7月25日 第3種郵便物関係の一切につき、熊本逓信局長より、24日付の認可書、延岡局を経て到着
- 7月26日 当日より延岡市内外各戸に亘り、有志望者の援助により、社員手わけにて、諒解を得るべく活動を開始。30日まで全部終了

## 86-2 中島商事から岩戸鉱山へ移行期の土呂久（1933年～1937年）

### 延岡市立図書館蔵「延岡新聞」の要旨

1934（昭和9）年

3月13日 延商から社員採用 岩戸鉱業来延

中島商事株式会社経営の錫鉱、岩戸村中野内の岩戸鉱業所は3月12日、延岡商業学校で3、4名を採用したようである。

3月21日 鉱山村岩戸に中島商事が投資！ 大規模の計画

岩戸村中野内で昨年来探鉱をつづけていた中島商事鉱業部は、最近大規模に道路の改修、機械の設置にとりかかっている。機械は主としてクラッシャー並みに削岩機が重なる

もの。

#### 6月9日 スズの精錬工場 土々呂に決定

伊形村は2か月前から中島商事との間で極秘裏に錫精錬工場誘致運動を行なっていたが、最近に至り具体化した。6月6日、中島商事の北重役が村長、村会議員と会見した結果、土々呂桶郷に錫の精錬工場を建設することに確定し、敷地1万5千坪の買収を7日滞りなく終了した。7月中旬ごろ工場建設着工の予定。

中島商事が土々呂を選んだのは、海陸運輸が非常に便利だからである。

#### 6月11日 工場の設置決定まで 東洋一てふ観測 極秘の裡に話は進む

誘致に成功した伊形村 月末には着工する錫精錬工場

「中央財界にありて活躍すると共に飛行機製作といふ国家的事業を努める中島財閥の手で土々呂桶郷に設立と決定した錫の精錬工場はまさに東洋一を誇る素晴らしいもの」

錫は軍事的に煙幕に大多量、飛行機に多く要する、歯磨きチューブのチューブにも。

日本では錫を自給できない。原因は、シンガポールにしか精錬所がないこと。

中島門吉氏が2、3千トン級の汽船が出入りできる建設地を探し、北九州・八幡がだめになり、東九州へ、土々呂に決まった。5月末日、伊形村の二宮村長と会って話は決まった。

電気精錬法。将来は東洋に足を延ばす。

#### 6月14日 木炭がうんと要る 土々呂製錬所が設立の上は

錫精錬所が今年末に操業開始となれば、錫の還元剤となる日向産木炭の消費に新生面を開くことが期待される。

#### 6月16日 天岩戸に 中島商事の大選鉱場

西臼杵郡岩戸村土呂久、及び中野内に夫々錫の採掘を開始しつつある、東京中島商事株式会社は、総支配人北伴治氏をして直接極秘裏に交渉中の處、価格の点において一時行詰りの形であったが、岩戸商工会長竹内勲氏の斡旋により最近急速に進展、14日社長中島門吉氏の実地調査の結果、位置は東岸寺に決定。15日、使用土地2万5千坪の買収並に水利権分譲の調印を終った。この大選鉱場が完成すれば、中野内鉱山並に土呂久鉱山より何れも架空索道で鉱石を運搬、1日500噸の選鉱能力が発揮出来、使用人員は採鉱、選鉱合せて約1万人と称せられてゐる。これが実現の暁には殆んど接続せる天の岩戸の町は特に異常の発展を見るであらうといはれてゐる。

竹内勲氏は左の如く語った。

非常時日本の最近の錫の需要は約7千噸、これに対する内地の産額は僅かに壺千噸、用途は毒瓦斯、飛行機、チューブ等々際限がない、ここに着眼した中島氏は実に非常時日

本の救世主だ。われ等は、この国家的大企業家に対して献身的の御援助をしたいと思つてゐる。

\*毒瓦斯は、同じ軍事的用途の「煙幕」の誤りか。あるいは、土呂久で産する亜ヒ酸が毒瓦斯の原料なので、混同したのか。いずれにしても、中島商事と毒瓦斯の関係の近さをうかがわせる。(川原注)

7月6日 来春早々から操業を開始予定 工事は大倉組の手で行う 土々呂の工場内容 伊形村二宮村長の話。

7月1日、東京本社の平野技師長が現地を見て、「最適地」と折り紙をつけた。

中島工場の桶川の敷地は、村で7500坪を埋め立てて工場に提供する

桶川に岸壁を設けて荷上場とする。赤水に4千トン級の船を着けるようにする。8月中旬に着工、来年1月に運転開始。

工場の設計の本部は、岩戸の鋳業所で。

7月13日 直接内務省に 亜硫酸精製 絶対反対陳情の岩戸村民

岩戸村の亜硫酸の鋳毒問題で、村民連名で直接内務省に警告方を陳情

本省は12日、陳情書を県に回付し善処方を注意してきた。

亜硫酸鋳が精錬事業の復活を準備中、甲斐村長は12日に出県して絶対不許可主義を陳情した。

7月24日 疑問の要はない 噂の高まる 土々呂の工場問題 心配を始めた村当局

埋め立て工事の遅延から、中島に対する疑惑の目が向けられつつある。

土々呂湾は工営隊の演習地として数棟の兵舎も建設されており、中島の敷地が兵舎とあまりにも接近していること、土々呂湾は内務省の第二指定港なので、県の意向だけで認可はできないであろう……という点。

伊形村は熱狂的に工場誘致に乗り出している関係上、二宮村長と4名の村会議員は広島第5師団に出張した。

中島は他の土地を物色中と憶測する者もいるが、「中島としては従来軍部とは特殊の関係にあり、殊に土々呂工場は直接軍需品製造を目的とした国家的工場であるとすれば、結局軍としても或種の条件を付し、埋立及工場建設に同意するのではないかとみられる」

8月3日 事業は知らぬ……と 文化を語る 中島商事の北支配人

来延中の中島商事株式会社支配人北半治氏を旅宿に訪えば、

——中島商事と飛行機製作所の関係は？

北 まったく別です。飛行機製作所は中島氏が金を儲けないで、ただ国家的の事業として経営し、もし利益があれば研究費に使用する、というやり方です。

——では中島商事の主なる事業は  
北 まあ鉱山でしょうね。

8月4日 倉庫も事務所も 陣容も整備した 中島商事の準備

中島商事の倉庫は、南延岡駅前の土地を借用し、建設中。別に貨物自動車庫附属のものが、ここ2,3日中には完成。この外に、駅前の旅館を改造し、中島商事事務所として、出張員も着任している。岩戸鉱業所用の諸機械が近くひんぱんに着荷するものとみられる。

8月9日 岩戸に選鉱場 設置を確定の中島 昨夜は北支配人の歓迎宴

中島商事の北沢鉱山技師長は北支配人とともに岩戸の鉱業所を踏査中だったが、その結果、岩戸東岸寺内に錫の選鉱場を建設することに決定。昨日は、土々呂精錬工場内を観察。村当局は昨夜、北支配人、北沢技師長を招待し、懇親の宴をはった。

8月31日～9月5日 竹内勲「中島商事の土呂久鉱山を語る—北半次氏と亡父に捧ぐ—」

(森田三弥による銀山開発、内藤家の服部伝兵衛による開発に触れたあと)

「明治27年亡父竹内令作着業の年は衆知の日清戦争、明治37,8年日露戦争の時は又同じく、再着手の大正7年は欧州戦争、わが軍シベリア出兵の年、然して今日、中島商事会社土呂久鉱山並びに中野内鉱山着手は正に35,36の危機を控えた年ではないか。かく考え来るとき、貧弱なる竹内家によって支えてきた土呂久鉱山外録も今国家的事業家中島知久平氏の主宰する中島門吉氏を社長と仰ぐ中島商事株式会社の御力によって、再び嘉永年間の如く、或は遠く永禄天正、三弥の隆盛時代の盛大を再び実現せんとしているのである」

「(嘉永の銀山が天岩戸に奉納したときのように)再び岩戸に沢山の江戸人を迎え、江戸の文化を伺い、江戸の言葉を聞き、江戸人の働き振りを見て、天岩戸の八百万の神々、山河また色を増しているのである」

「昭和の中島商事は、昭和9年8月23日、物語多き土呂久に意義ある山の神の遷座祭を行った」

(鉱山の名称について)

森田三弥時代には土呂久銀山であつたらしく、外人技師トロフが手を付けた山だから嘉永5年酒井五左衛門が外録銀山と改めた、と岩戸庄屋日記にある。

竹内令作に至って、どういう理由か外録鉱山と改め。

中島商事の経営に移って岩戸鉱山と名づけ、最近意識してかせずか、土呂久鉱山として  
いるようである。

厳正に申せば、中島商事株式会社岩戸鉱山土呂久鉱業所とでもすべきであろうか。

9月3日 非常時風景の 岩戸村会 竹内勲氏宅で開会

岩戸村は市街地の道路拡張による商店、村会議事堂、村役場、産業組合の新築でごった返している。中島商事会社の作業にて、社員、鉱夫および関係土木、建築、電気関係者多数入り込み、小学校も教室不足。8月31日、村会は竹内勲氏宅で開会した。

9月5日 事務所も完成 引越しも終わった 土々呂の中島商事

土々呂の中島工場用地埋立は、認可以来約 500 人で昼夜兼行で岩盤の難工事を急いでいる。10 月中に地ならしは完成予定。用水は、2 本の大井戸、2、30 尺掘っており、なお 10 尺ほりさげ、必要によっては他に数カ所鑿井すれば必要水量は確保できる。

建設中の事務所は 9 月 2 日に移転、「中島商事株式会社土々呂精錬所建設事務所」の表札も掲げた。

9月5日 中島工場の埋立 けふ公報で発表 1ケ年以内に竣工

中島工場の土々呂鯛名地先の倉庫及び道路物揚場造成の用地 7550 坪の埋立は、9 月 4 日付けの県公報で認可の旨発表。工事着工は認可の日より 1 ヶ月以内、竣工は着手の日より 1 年以内。工費は 7 万 8500 円。

9月29日 妙な風説に 気をもむ伊形村 工事はどしどし進む 中島商事の近況

埋立てに要する山が見込みより岩盤であるため工事は予定よりだいぶ遅れている。工事建設に必要な敷地だけは、請負期日の 11 月 3 日までに完成することのこと。懸念されていた用水も 2 本の大井戸穿掘より見込み通りの水量が湧水。一部のうわさ。中島商事が他に製錬所用地を買収した？

9月29日 採掘開始に 大童の中島商事 岩戸と児湯郡川原に

中島商事は岩戸の各鉱山にも一段と力を入れて鉱石採掘に努力しつつある。

東京本社から来延中の幹部社員堤克敏氏は、児湯郡高鍋町の西「川原」より 6 里余り奥の「長越」付近に錫鉱発掘着手準備のための土地を買収。すでに鉱夫 50 名派遣。岩戸鉱山とあいまって児湯地方にも本格作業がすすめられるとみられる。

10月8日 絶対に不動方針 土々呂の中島工場と 平沼氏のみやげ話

中島工場の前途に一抹の不安を抱く者もいた。①昼夜兼行で敷地の地ならしをしているが、切り開き中の山の地質が意外に堅い岩盤だった。②岩戸の鉱業所が鉱脈の掘りあてにいたらない。

昨夜、東京から帰延した平沼正一氏によれば、「本社の方針は絶対に動揺なく、最初の計画通り土々呂工場は全力をあげて工事の完成を期することのこと」「中島門吉氏はもとより、飛行機製作所の後立たる中島知久平氏の信念もただした結果」「伊形村としてもなん

らの不安を要せず」

10月9日 大倉組で施工 岩戸の工事は鉄道工業で 中島商事と工場

土々呂の精錬所の建設は大倉組の手で施工。

岩戸鉱山の選鉱場の建設は鉄道工業が着工。

10月22日 25日に起工式 土々呂の中島工場

中島錫精錬所の敷地の地ならしができたので、10月25日午前10時より大倉土木株式会社の手による起工式をおこなうことになった。

11月9日 鉱業王国出現 県北に3大事業 一大壯観を呈するだろ

中島商事の岩戸鉱山は中野内、土呂久、長谷の3か所を中心として錫採掘につとめつつある。一方、選鉱場の建設も、土々呂精錬工場の完成と並行して進んでいる。

各種機械類はほとんど到着し、南延岡駅前の会社倉庫に格納、一部は東岸寺選鉱場建設現場に運搬されている。

中島本社より堤克敏氏が岩戸、延岡、児湯郡の中島事業全般の指揮監督に出張している。岩戸鉱業所には、内海所長が技術部を主宰している。

「中島の選鉱場が完成の上は、天下の三菱槇峰鉱山、次いで東洋鉱山株式会社の見立鉱山、並びに中島商事の岩戸鉱山……神都高千穂の霊山には、新設と兄妹を誇る3社の鉱山と選鉱場が操業を競うわけで、数万の従業員が高千穂一帯の山間に集合し、愈々岩戸は弥栄の都と化するに至るであろう」

11月11日 中島商事と 朗らかな報道

中島商事の姉妹会社中島飛行機製作所が米国ダグラス機の製作権を買収して同機の製作に着手すること。新興勢力としての「中島兄弟」の名はますます有名となりつつある。

かかる朗らかなニュースを聞くと、中島商事の県北の事業に関心をもつ地元民にとっては明るい気持ちになる。

1935年1月10日 優良な鉱石がなくて遅延 土々呂の工場内情

延岡市の仲田市長は昨年末、中島商事の本社を東京駅前の明治ビルを訪れ、中島門吉社長に面接した。その帰来談と記者の考察を加えると――

土々呂に建設中の精錬工場が遅々として進行しない原因は、岩戸その他の鉱山において品質優良な鉱石が発掘されないから。中島商事の背後の力になっている飛行機事業その他から見て、県北の事業を悲観的に観るには当たらないが……。

1935年1月30日 埋立事業も終り 直ちに建築に着手 中島社長北支配人も近く来村する 土々呂工場経過

土々呂中島商事の精錬工場は、削り取った山の地質が硬い品質であったため、敷地の完成が延び延びになっていたが、ようやく一切の埋立工事が今日完成した。2, 3日前に帰村した二宮村長の話。「2, 3日うちに本社から中島社長と北半治氏一行が来ることになっている。これからは急速に進捗すると思います」

1935年2月19日 飛躍する港の春 専用線の建設と棧橋工事 土々呂の二大工事

日の影線開通とともに、岩戸、高千穂で採掘された鉱石は、岡元駅から細島、土々呂海岸に搬送される。中島精錬工場は5月ごろ操業開始を予定。鉄道省と工場は、赤水工場に至る専用線を建設する。将来、岩戸鉱山から1日平均40貨車の予定。現在は15トン貨車10台。

土々呂港の商船棧橋は5月末に竣工予定。総延長240尺の大規模棧橋。

1935年2月20日 社長の視察を待つ土々呂 熱誠溢るる便宜！ 中島商事 工場問題の成り行き

中島商事精錬工場の建設は、敷地の整理を終え、建物建設に着手、すでに基礎コンクリートは完成。

中島社長は先日岩戸鉱業所に到着。土々呂の村は、近く中島社長が現地観察のうへ、工場建設も一段と進捗すると希望と喜びに満たされている。

1935年2月21日 盛んに鉱山買収中 中島社長の来延は月末 北支配人も同時に来る

中島商事は九州各所の鉱山買収を進めているらしい。中でも大分県日田の金山はすこぶる優秀とのこと。現在北氏は福岡にて要務中。中島社長は岩戸から児湯郡尾鈴鉱山に向かい、その後鹿児島県下の鉱山を観察し、月末に北氏とともに来延し土々呂観察の予定。土々呂の事業は原料鉱石の産出地たる鉱山の事情によるが、社長の出張を契機に一段と進捗し、将来の計画も具体的に決定をみるに至るであろう。

1935年3月1日 フイになる 中島社長遂に寄りつかず 伊形村あきる

九州全体の鉱山観察中の中島商事中島門吉社長がいよいよ土々呂にも来るということで、伊形村は村長はじめ村民一同が歓迎会を準備していたが、中島社長は再び鹿児島に向い、そのまま九州本線を東上することに変更になった。

探聞によれば、24, 25日頃、中島社長は単身土々呂の建設現場を観察したらしい。

1935年3月4日 回避気分の中島社長に 岩戸鉱山諸問題の 解決を要望す 村長、商工



#### 会長の連名で

中島門吉社長は岩戸村でも各種鉱場および選鉱場を絶対秘密に観察、ただちに引き揚げた。未解決の村内諸問題の対策を講ずる必要が生じたので、甲斐村長、竹内商工会長は留意を願いたいことと可及的に解決を要する数件に説明を加え、本年中に社長来村できないときは責任ある代表者の派遣を要求し、6日親展書を出した。

1935年3月5日 大風呂敷の北中島商事支配人 社長はいづれ挨拶に

中島商事社長は伊形村の歓迎会をすっぽかして東京に帰った。中島所長と岩戸、尾鈴、鹿児島を回ってきた北支配人は、このことに関し「今回は失礼して、岩戸の選鉱場も土々呂の精錬所も近く完成するので、その際ご挨拶申し上げることにしました」

北氏の談によると、岩戸の鉱石はすでに貯蔵が山と積まれ、鉱石は大丈夫とのこと。

1935年3月27日 工事の遷延は 土木作業が難渋のため 土々呂工場問題

中島商事の県北事業に詳しい某氏によると、土々呂精錬所の工事の遅れは敷地削り取りの岩盤が硬くて難工事になったため、4月中の予定期間には必ず竣工する、岩戸の方も10年前から調査に着手したので鉱石の問題はなく選鉱場がもうすぐ完成する、とのこと。

1935年5月9日 鉄筋コンクリートで 完全を期せる工事 土々呂港棧橋落成

明10日愈よ盛大に挙式

土々呂港は、昨年（1934年）11月17日に工を起し、170日を費やして工成り、明日（1935年5月10日）落成式。

1935年5月25日 6月中には 岩戸選鉱も操業 北中島商事支配人語る

来延中の中島商事北支配人の話。「九州全体に手を広げて鉱山を買った。土呂久も中野内も見当がついた。6月下旬までには岩戸選鉱場も操業、したがって土々呂精錬所も漸次運転開始になる」

1935年5月29日 3万3千円を 中島より伊形村へ

伊形村は、工場誘致と将来の発展のため、土々呂精錬工場の敷地の山肌切り取りおよび埋立を村費で行い、中島商事に提供を申し出て事業を進めてきたが、中島は村に物質的負担をかけるのは快くないとして、切り取りおよび埋立費用として3万3千円を村に提出することにした。残りの岸壁埋立および機械据え付けは一切会社の手で行う。

中島としては、全般的に工事の進行を急いでいるが、岩戸選鉱場の完成を第一として全力を尽くしているもよう。

1935年8月11日 新興木浦鉦山 目ざましい発展ぶり

見立鉦山経営者範多氏によって開発された大分県大野郡の木浦鉦山は、目下目ざましい発展を遂げ、採鉦設備もほぼ完備、社宅その他附属建物類も続々建設中で、木浦一帯に活気がみなぎっている。従来は、アンチモン、亜ヒ酸、マンガン等を少量ずつ生産していたもので、今回錫鉦発見により昔日の繁栄がもたらされようとしている。

1935年8月28日 来月末から操業 土々呂精錬工場 地方との提携を強調  
平沼氏の土産話

上京中だった市内高千穂通平沼正一氏が26日に来延して語った。「中島錫精錬工場は来月（1935年9月）完成操業に至るもようで、中島社長も11月初旬に来延されるようだ。北海道の金山がものすごい好景気。私も滞在中、原始的な揺盤で3千円ばかりの金を選鉦する状況を見せてもらった。土々呂に錫精錬所完成の暁は、岩戸、尾鈴、木浦の同社経営の鉦山から鉦石を集めることになっており、日産3トンくらいのような。従業員は約1000人、来月末から募集する」

1935年12月22日 工事は略ぼ完成 土々呂の中島工場状況

伊形村二宮村長は、出県の車中で語った。「中島精錬工場は9分9厘完成した。岩戸工場の方が、県当局の許可を待たずに用水溝の工事着工が問題となって一頓挫。岩戸と土々呂同時操業開始となれば、明春2月ごろでしょう。その間、鹿児島から鉦石を少しずつ採ってきて試験的に精錬をおこなっているが、成績はよいようだ。北さんは、新聞では中島商事支配人となっているが、支配人ではなくて九州出張所長であるらしい」

1936年7月6日 男錫鉦山の 本格操業で 俄かに活気を呈する郡南

試掘してきた男錫鉦山は見込み可能となって、中島商事によって鉦夫の大募集中。東郷町が物資集積場となるので、同地方は活気を呈すると期待されている。富高町の貨物自動車も鉦石運搬で収入増となる。

1936年8月20日 北川筋で鮎が減る 木浦の鉦毒の為か 営業者間で調査を始める

過日の増水後、北川村河川筋で鮎が少なくなった。木浦鉦山の鉦毒が原因といわれるので、村当局と漁業組合が調査することになった。

1937年5月19日 月産200トン 岩戸鉦山の躍進 尚ほ将来500トンを企画

資本金125万円で創立された岩戸鉦山会社は岩戸村内33万坪の鉦区で旧鉦7カ所、新坑3ヶ所の掘進整備延長につとめ、今般、削岩機その他搬鉦設備の充実によって第1期事業計画の月産200トンの産錫を実現することになった。これにより年産20万円以上の利益を確保、1割以上の配当を保証する。将来は昭和14年度までに坑道の延長、施設の

完備とあいまって月産 500 トンの出鉱を企画している。

### 86-3 中島商事の南九州における錫鉱山開発

渡部一英著「巨人・中島知久平」P267 より

(大正) 11 年 3 月、彼は中島商事株式会社 (資本金 200 万円) を創立 (登記面では 5 月 14 日からとなっている) して、その社長となり、喜代一を専務取締役にした。これは、注文が多くなるに従って材料入手に困難を感じなくなった中島飛行機製作所に対して、材料その他の需給を供給することを目的として設けたもので、その本社を東京市京橋区南大工町に置いた。

渡部一英著「巨人・中島知久平」P312 より

千歳鉱山の開発は、初め中島商事会社内に鉱山部を置き、そこで行っていたのであったが、11 年 10 月 1 日別に資本金 1 千万円の千歳鉱山株式会社を創設して (社長中島門吉) 運営された。なお、中島商事の鉱山部では、九州に在る錫鉱山も経営していたが、同じ年にこれも独立させることにし、12 月 23 日資本金 1 千万円の岩戸鉱山株式会社 (社長中島門吉) を創立して、鉱山部を廃した。

小宮高樹さんの話 (1977 年 8 月 15 日聴取)

中島商事は昭和 4 年に九州と北海道一円で地質調査を始めた。

昭和 5 年 9 月、中島商事が大分県採登第 98 号、140 号 (木浦鉱山の鉱区) を買収。

昭和 6 年 4 月 16 日に採登第 65 号 (吹谷鉱山) を登録したとき、中島門吉の個人名にしたのは、中島商事鉱山部としてやっているからだろう。関口暁三郎は中島の社員。名義変更したのは社内事情だろう。

昭和 11 年 11 月、資本金 1 千万円で岩戸鉱山を設立。商事会社から鉱山部門を分離した。

「九州の金属鉱業」P18 より

中島門吉氏は昭和 9 年以來宮崎県において、岩戸村地方の奥見立 (現在休山中の嘉納鉱山)、土呂久、登尾鉱山および東臼杵郡東郷村の男<sup>すず</sup>錫<sup>すず</sup>鉱山、鹿児島県の垂水鉱山、大分県の新木浦鉱山に対していずれも巨費を投じて開発し、土呂久、新木浦の両鉱山には浮遊設備をもった比重選鉱場を新設し、さらに延岡市土々呂には乾湿併用の錫製錬所を建設し、土呂久、新木浦の錫精鉱を処理したが、昭和 19 年 (1944) 三井鉱山株式会社がこれを買収し、三池製錬所の分工場として山口県太田町長登鉱山のコバルトの製錬に使用した。

木下亀城「九州の錫鉱床」（「鉱業」第13巻5号所収）

岩戸より土呂久又は中野内に至る道路は、従来は狭隘なる山路にして僅に人馬を通ずるに過ぎざりしも、昭和9年中島商事会社にて事業を開始すると共に道路を改修して自動車を通ずるを得るに至りたるを以て、交通大いに便となれり。